

七小校長室便り

開校50周年

国立市立国立第七小学校

校長室便り No.3 令和4年(2022年)7月19日

明日は終業式です。

令和4年度の1学期が、明日の7月20日(水)で終わります。

開校50周年の年の1学期でしたが、様々に予定をしていた教育活動をおおむね実施することができました。

コロナ禍ではあり、智恵と知見を活用しながら、様々に工夫をした日々ではありましたが、保護者の皆様や地域の皆様に支えられ、明日を迎えることができます。心から御礼を申し上げます。

ありがとうございました。

明後日からは夏休みとなります。様々にご家庭でのご予定があることと思われませんが、感染症対策と熱中症対策に取り組み、お元気で健康で過ごされますようお願いしております。



さて、本校の北門にあった、特別支援教育に関わる学級名や教室名の看板を新たにいたしました。今年度、再開級された、きこえの教室を含めた「きこえとことばの教室」、昨年度、設置された「特別支援学級 くるみ」、そして、以前からあった「特別支援教室 はばたき」の看板を、開校50周年の意義も込めて、リニューアルいたしました。

それぞれが50周年を契機に、次の10年後の60周年に向けて、様々な課題に挑戦して、本校の児童の安全で安心な居場所として、また、お困り感をもつ保護者の皆様や子供たちのニーズに対して応えられる場として、挑戦し発展し続けられるよう努めてまいります。

特別支援教育におけるご理解とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

【今年度の水泳指導が終わりました。】

今年度、熱中症対応の1つとして、水泳指導の期間を1学期のみといたしました。また、指導の開始を6月1日からにして、例年よりも2週間程度早く設定をしました。最近の梅雨時期から初夏にかけては、異常なほどの暑さに見舞われることも多く、熱中症に警戒しなければならないところです。

今年度においては、各学年とも、水泳指導に必要な時間を確保できたことと、子供たちの楽しみにしているプールでの活動を保障できたことは、嬉しいところでもあり、コロナ禍の前の状況に近いところまで戻すことができます。

また、無事故で終えられたことも、教職員による水泳指導における危機管理の取組と、保護者の皆様の水泳指導へのご理解や健康観察へのご協力のお陰です。心からの御礼を申し上げます。

子供たちの健康や安全が、学校にとって水泳指導における最優先事項です。これからも、保護者の皆様としっかりと連携をして、よりよい学習活動になるようにしてまいります。



【野外体験教室について】

夏休み期間中の8月17日(水)、18日(木)には、5年生の宿泊行事である野外体験教室を実施する予定です。

現在、コロナウイルスの感染状況が急激な速さで増加傾向となっていますので、子供たちも保護者の皆様も、ご心配なところかと思えます。教育委員会においても国や都からの通知等に基づいて、様々に検討をされているところであり、以下のように保護者の皆様にお伝えくださいという連絡がありましたので、お知らせいたします。

「国や都・市の方針として他県への移動の制限が出された場合は中止または延期となる場合があります。その際は配信メールで連絡します。また、このような状況で発生したキャンセル料は、国立市が負担します。」

本校としては、実施に向けて、様々に準備を行っていますが、これからの感染状況によっては、中止や延期もやむを得ないと考えております。ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

【特別支援教室のはばたきの先生たち】

本校には、特別支援教室「はばたき」があり、特別支援教室の拠点校であるという ことは、保護者の皆様や地域の皆様には、ご存知いただいているところかと思えます。

現在、東京都にある特別支援教室は、学級での生活や日常生活において、集団行動やコミュニケーションなどが苦手で、友達や他の相手との関わり方や行動の仕方などを、個別や小集団において学ぶ場として設定されており、よりよい学級生活や学校生活を送ることができるように設置されています。

また、東京都では特別支援教室を、「通級による指導」として位置付けておりますが、現在は、児童が他の学校に行って指導を受ける形ではなく、巡回指導教員が各学校に行き、指導を行っている形です。以前のように他の学校に行くには、学習の時間の調整や通うための時間等、子供たちの学びにとって難しい面がありましたが、今のように自分の通う学校で指導を受けることができるので、学級を離れる時間も少なく、安心や安全に配慮された形となっています。



本校には、5名の「はばたき」を担当する巡回指導教員がおりますが、国立第三小学校と本校の児童の巡回指導を行っています。そして、この5名の教員は、国立第三小学校と本校の仕事を兼務することとなっており、両校の職員として働いています。

5名の内、国立第三小学校で4日間、職務に就いている先生が2名、3日間が1名、他の2名は、1日、というように、各校の子供たちの指導する人数に応じて、教員を配置するようにしています。

また、巡回指導教員の先生たち同士が情報交換するために、拠点校である本校や巡回校において、5日間の内、1日は全員が揃うようにして、はばたきの運営が円滑に行えるように工夫しています。

このように、特別支援教室 はばたきの先生方には、本校に1日や2日しか勤務していない先生もいて、多くの保護者の皆様には、なかなかお目にかかれないものもおります。本校の教員として、学校行事等の多くの場面で従事し、担任以外の先生として、子供たちを様々な場面で支え、指導を行っている教員がいることも知っておいていただければ幸いです。

これからも、保護者の皆様、地域の皆様によりよく学校を知っていただき、更に学校と協働して、子供たちの育成を図っていただくためにも、様々に学校の状況を発信してまいります。

引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

【校長のつぶやき】 最近、数名の先生方と私が教員として採用される時のことを話す機会があり、改めて、教員人生を振り返る時間がありました。

私が教員になったのは、バブルが終わった頃で、大学卒業後は、しばらく様々なチャンスの下で音楽の活動を行っていました。それでも、音楽活動で十分に生活ができる程のバブル全盛期でしたので、教員を目指そうという気持ちと、音楽の道で生きていきたいという気持ちが交錯した複雑な気持ちでした。また、アルバイト先がホールでの演奏会やコンサートに関わる音楽関係の事務所でもあり、とても楽しく、充実した日々で気分的にも最高でした。

それでも、自分が教員になろうと決めて上京をし、両親の理解の下に東京の大学で学んだことは、大きな心の支えではありましたが、教員採用試験には挑戦をしていました。そして、様々な方々の激励や支えのお陰で採用試験に合格をし、後は、採用されるのを待つばかりとなりました。

ところが、各市区町村の採用の面接を2回受けましたが、残念ながら採用されませんでした。

そのまま、新年度の4月1日を迎えました。私の中では、「今年も、また、採用試験を受けることになるんだ。」と諦めの気持ちで過ごしていたところ、上記に記したアルバイト先から就職の話があり、喜んで話をお受けしました。就職も決まりホッとして、やる気になっていました。

今も忘れませんが、その日が4月4日。アルバイト先から帰り、自宅の留守番電話にメッセージを確認したところ、明日4月5日に教員採用の面接を行う旨の連絡でした。アルバイト先の上司に相談をしたところ、「よかったじゃないか。しっかりと面接してきなさい。」と激励をされ、私としては、複雑な気持ちではありましたが、面接を受けることにしました。

そして、4月5日に面接を受けに行き、その日の午後に「学校に面接に行ってください。」との話。学校に行き、校長先生と面接をして、4月6日の始業式の日には、担任として教員の第一歩を記しました。今、振り返ると、教員人生の波乱万丈がスタートしたこと
の象徴だったように思います。私の教員の原点ともいえる日のお話をさせていただきました。人生は不思議ですね。

